

## 令和6年度 岩手県立高田高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

### 1 開催日時

令和6年4月23日(火) 10:00~11:00

### 2 会場

高田高校会議室

### 3 内容

#### (1) 開会

#### (2) 校長挨拶

本校では昨年度から学校運営協議会を設置し、2年目となった。学校運営協議会は、保護者や地域住民の声を学校運営に積極的に活かし、学校と地域が一体となって特色ある学校づくりを進めることを目的としている。

本日は、大きく2つのことについて協議いただきたい。1つ目は、令和6年度の学校経営計画についてである。昨年度の学校経営計画及び達成状況についても資料に載せているので、参考にしていただきたい。2つ目は、本校の特色ある教育活動についてである。本校では、様々な特色ある教育活動を行っているので、本校の取組を理解いただき、それぞれの視点から指導、助言をいただきたい。

この会が地域の宝である本校生徒のために、そして地域のために有意義な会となるよう、活発な意見交換、情報交換をお願いしたい。

#### (3) 出席者自己紹介

##### 会長・副会長の選出について

##### ○副校長

協議事項については会長が進行することとなっている。学校運営協議会設置要項の第9条では、委員の互選により選出となるが、いかがするか。

##### ○委員

事務局側で案があればお願いしたい。

事務局の案について、全員から賛同をいただいた

##### ○議長

ただいま会長ということで選任いただいた。皆様の協力をいただきながら、この会を進めて参りたい。

#### (4) 協議

##### (ア) 令和6年度における学校運営について

## ○校長

令和6年度の学校経営計画を諮る前に、令和5年度の学校経営計画の作成状況について説明申し上げる。資料には、昨年度、本校で実施した学校評価アンケート（調査対象は、生徒、保護者、教職員）の結果及び、昨年度の学校経営計画のうち、重点目標及び達成指標と取組方針を受けて、昨年度の学校経営計画にかかる達成指標の達成状況について示している。重点目標のアからカについて、達成指標に基づいた自己評価は全て「a」、つまり達成ということになっている。それぞれの重点目標に対して、この2月に行われた2回目の学校運営協議会では、委員からいただいた意見をもとに、学校関係者評価、それから改善方策としてまとめた。これが昨年度の状況についてである。

これを受けて本年度の学校経営計画について説明申し上げる。本校では、一昨年、スクールポリシーを策定するとともに、教育目標の見直しも行った。高田高校が生徒や地域の実態を踏まえて果たすべき役割は何かという点を強く意識し、県の教育振興計画や文科省の新学習指導要領も確認しながら作られたものである。これらについては、今年度も変更せずに進めていきたい。魅力化協働パートナーも昨年と同様である。

目指す学校像については、2月の学校運営協議会で、昨年度のものを踏襲しながら今年度学校経営計画を作成することで承認いただいていたが、若干変更点がある。

重点目標アについて、昨年度は、本校の教育目標を受けた形の表現で、知・徳・体をバランスよく育むとしていたが、今年度は学力向上に絞った。県からは、目標の設定にあたっては、全ての教育活動を網羅的に盛り込むのではなく、学校経営の基軸となる項目に厳選することと指示されている。達成指標が学習指導に絞られている点、それから本校の入学生の学力が年々低下傾向にあること、学力差が広がっていること等を踏まえ、このようにした。

次に、地域と連携・協働した教育活動の推進や復興・防災・減災教育の充実に関してのイとウについては、昨年度のイウエをまとめて2つにした。エの海洋システム科の活性化については、昨年度のオと同様である。

今年のオの「生徒の人格を尊重し、不適切な指導を根絶する組織作りを推進する」については、今年度新たに重点目標とした。2018年の不来方高校バレーボール部員の自殺事件を受けて、県では3月に再発防止岩手モデルの最終案を公表したが、この岩手モデル案を参考に、学校計画においては、不適切な指導にかかる目標と取組について位置づけることとされている。

カのいじめ対策にかかる目標も同様に県から学校経営計画に位置づけることとされていて、こちらは昨年度と同じ目標になっている。

次に、達成指標に関しては、1つの重点目標につき1つに焦点化して設定することとなっている。今年度は全ての達成指標を学校評価アンケートにおける生徒の回答を基に判断することとしたい。イの「学校は地域との連携を図っている」は、今まで保護者と職員にしか聞いていなかったが、今年度は生徒にも回答してもらう。

(2)の取組方針について、アは基礎学力の定着、生徒の主体的に学ぶ姿勢の育成、教員の授業力向上を図る。イに関しては、T×ACTION（Takata Action）を通じた探究活動の推進、キャリア教育や国際交流活動の中でのグローバル人材としての資質育成、そしてこの学

校運営協議会の充実を図りたい。ウについては、復興教育、震災の教訓を引き継ぐ教育の充実とともに、避難訓練や防災講話の内容の工夫を進める。エについては、海洋システム科のコース制が廃止となり2年目を迎えた。2年生からの実習やカリキュラムについて、より良いものとなるようにしていきたい。2月の学校運営協議会で東海大学の坂本委員から話があったが、地域産業や関係機関との連携をさらに深めていくこと、体験型活動の実施による海洋システム科の魅力発信等にも努めていきたい。オに関しては、体罰・暴言防止に向けて、生徒の人格を尊重し、思いやりのある指導を行うという本校の宣言に則った指導を行うこと、コンプライアンス遵守のために「報連相」、それから、教職員での情報共有と組織で対応することの徹底を図る。カについては、未然防止に努めるという観点から3つ挙げている。普段から生徒1人1人を注意深く見ていくとともに、いじめ事案が起こった時には、高田高校いじめ防止基本方針に則り、組織的に対応する。以上、検討をお願いしたい。

○議長

ただいま校長から令和5年度の経営計画にかかる達成状況と今年度の学校経営計画について説明をいただいた。この件に関して、何か質問や意見はないか。リモートで参加している方も質問や意見はないか。

(質疑なし)

○議長

ただいま、説明のあった令和6年度学校経営計画について、承認いただけるか。

原案のとおり承認された。

○議長

続いて、特色ある教育活動についての説明をお願いします。

(イ) 特色ある教育活動について

○副校長

本校は、地域の協力と支援のおかげで様々な活動を行ってきた。他校では経験できない貴重な体験も多くある。昨年度に行われたものの中からいくつか紹介したい。

アの国際理解に関する活動では、昨年7月27日から8月2日までの1週間、陸前高田市の支援のもと、本校生徒10名と教員2名がシンガポール派遣事業に参加した。シンガポールでは、地元の学校や赤十字施設訪問、ホームステイを通して日本と違う文化に触れ、大いに見聞を広めることができた。この研修の成果は学校内だけでなく、9月に市民向けの報告会を一本松ホールで行った。また、12月には1週間ではあったが、シンガポールから16歳の男子生徒を留学生として受け入れ、交流を深めた。この男子生徒は美術を専攻していることから、本校で進めている防災リュックのデザインを依頼するなど、今でも繋がりがあ

いて6月には、姉妹校であるデルノータ高校から2名の留学生を受け入れた。女子生徒と男子生徒1名ずつであったが、女子生徒は1週間、男子生徒に至っては1か月の期間、本校の生徒と共に学校生活を満喫した。

イの高大連携では、2年生の総合的な探究の時間で行っている事業で、4月下旬から2年生が地域の課題等について班ごとに調査を行い、最終的に8月下旬に立教大学の学生から指導してもらい、自分たちのまとめを発表するという流れで行った。今年度は8月27日から30日にかけて立教大学の生徒が来ることになっている。

ウのT×ACTION PROJECTでは、1年生の総合的な探究の時間を使って行われ、生徒の興味や将来の進路から4つの班に分かれて、それぞれの分野で学習を進めていく。そして、調べた内容をしっかりと人に伝える力を身につけさせるために、発表会も実施した。

エの震災学習では、防災・減災講演会で、高田市に住む外国の方を招待して話を聞き、災害弱者と呼ばれる方々へ、実際に災害が起きた場合にどのように目を向けていけばいいのかを考えるきっかけになった。東日本大震災メモリアル行事では、陸前高田市在住の防災士である武蔵野さんを講師に招いて、貴重な話を聞くとともに、生徒全員でパラコードを作成して防災意識の向上を図った。昨年度は、宮城県の高賀城高校の東日本大震災メモリアル dayにも参加した。これは、東北地区の高校生が多賀城に集まって、防災・減災について、日頃から学習していることを発表し合う行事である。また、京都の工学院高校との防災教育活動では、自分たちとは違う地域や環境で生活する防災・減災教育を通じて交流し、お互いが地域のまちづくりに参画できるような人材の育成を目指して行っている。昨年度は12月の冬の寒い時期に京都から高田の方に生徒が来たが、今年度は7月下旬にまた京都工学院高校の生徒が陸前高田市を訪れることになっている。

オの海洋システム科では、6次産業化を見据えて幅広く水産に関する学習を行っている。学校内だけではなく、地域の方々の力を借りて実践的活動を多く取り入れていくことにしている。りくカフェとの健康料理教室では、2年生の海洋システム科の生徒が学んでいるフードデザインの中で行った。食生活から健康作りを考え、実際に管理栄養士の指導のもと料理を作った。普段料理をしない男子生徒も慣れない手つきながら必死に材料と格闘した。小学生に対する水産教室では、高校生が先生役となり、小学生にかまぼこ作りを教えた。昨年度は市内5校の小学校が参加したが、今年度は6校参加予定となっている。小学生も楽しそうに体験しているが、高校生も普段の学校生活では見せることがないような優しい笑顔で小学生に対応している。地域連携避難訓練は、広田小学校の児童と保護者、広田の地域住民、陸前高田市の防災会が参加する一大イベントとなっている。最初に、参加者全員で大野海岸の清掃活動を行った後、防災無線を使って避難訓練をした。その際、小学生の誘導を高校生が担当する流れで行っている。牡蠣の養殖実習では、震災後、艇庫が復旧し、牡蠣を販売できるところまで環境が整った。今後は多くの実習を進めていくことになっている。

カの地元との関わりでは、毎年、市内管内の企業の協力のもと、多くの生徒がインターシップを体験している。また、本校は可能な限り地域のボランティアの依頼を受けており、例年多数の生徒がボランティアに参加している。今年度はすでに氷上山の刈り払いボランティアにも参加し、今月末にはサンファーム小友さんと玉ねぎ畑の除草作業体験を行うことに

なっている。地域、企業の皆さんに支えられ、高田高校の生徒は貴重な体験をさせてもらっている。

以上で、説明を終わる。

○議長

副校長から特色ある教育活動について、写真入りで生徒の活動を紹介してもらったが、何か質問等あるか。

○委員

【質問】国際理解に関する活動で、海洋システム科との交流があったが、海洋システム科らしい交流の中身があったらいいと思う。交流の中身はどのようなものか。

○企画情報

【回答】海洋システム科らしい交流にはかなり取り組んだ。所有している実習船を用いた、法律の許す範囲での操船実習も行った。かなりの満足ぶりであった。

○委員

【質問】地元との関わりに関して、ボランティアとアルバイトの違いは、その対価が発生するかしないか、実習の場合だと企業負担をしながら進めていくものだと思うが、その辺りについてどのような線引きで行っているのか。

○企画情報

【回答】氷上山の除草作業については、お金をもらっているのでアルバイトである。ただ、今ボラバイトという括りもあり、ボランティアのようではあるけれど、勤労精神を養うためにアルバイトの形でお金を貰いながらというものもあるので、氷上山の除草作業についてはそれに近い。ボランティアについては、毎週のように話があるので、全部の生徒ではないが、興味を持っている生徒に紹介している。アルバイトについては、基本的には許可制になっており長期休業中を基本としている。長期休業中で特色のあるものについては、教員が入って指導することもある。先ほど校長からの今年度の方針もあったが、学業の充実が第一義で、両立する形で進めていければよい。

○議長

【質問】国際理解に関する活動と地元との関わりについて、陸前高田市に国際交流協会があるが、そこの関わりは何かあるか。

○企画情報

【回答】国際交流協会については、観光交流課の方に紹介いただき、これから交流を増やしていきたい。コロナウイルス感染症の影響で4年間ほとんど国際交流ができなかった状態で、これからと考えている。昨年度の実績では、12月に行われたクリスマス会に、海洋システム科の当時の3年生が参加し、英語を交えながらシンガポールに行ったことを説明した実績がある。他には、ボランティアの形ではあるが、タイ料理の講習会

についても参加を希望する生徒には参加させている。これからどんどん実績が積み重なっていく状況ではないか。

○委員

【意見】事業の説明の中でパラコードのワークショップをやっていただいたとあったが、シンガポールのアイナチャイニーズスクールという高校とパラコードや手紙を送り合うとか新しい交流が発生している。色々な形で、海外との交流ができる学校になっていて素晴らしいし、関わらせていただきありがたい。先方の学校からは引き続き継続して細く長く交流をやっていきたいと言われており、可能な範囲で実行できたら嬉しい。

(ウ) その他

○議長

最後に委員の方々から、一人ずつ提言とか感想とか話していただければと思う。

○委員

【感想】特色ある教育活動について、国際理解に関する活動、シンガポールであったり、デルノーテ高校であったり、非常に活発に活動されている。細く長くでもいいので、これを継続的にできていけたらよいと考えているので、市としてもできる範囲で支援し、積極的に関わっていきたい。

○委員

【意見】進路で悩んでいる生徒もいると思うので、例えば高田高校出身で大学に行き、高田に帰ってきて就職している年齢が近い先輩から、こういう経験して大学に行ってこんなことした、帰ってきてよかった、帰ってこない方がよかった、とか話してもらう機会を盛り込むと悩んでいる生徒の選択肢が広がると思う。それにも取り組んでいただきたい。

○委員

【意見】他県の学校や小学校、あるいは大学とかと色々なことをしているが、中学生と一緒にやる活動があってもよい。接続する学校の立場からすると、そういったところを期待したい。

【質問】本校の生徒が一番多く世話になっているが、身につけさせたい力を、高校でこういう力を育てようとしている、それを受けて中学校もそれと関わるような力を目指すと、中高と繋がっていくと思いつながりながら聞いた。学校評価の結果で、高高生に身につけていると思う力、身に付けさせたい力のところで「傾聴力」とあるが、どういうところを目指しての傾聴力なのか教えていただきたい。

○企画情報

【回答】「読む、書く、聞く、話す」のうち、読むは大学入試でも使うので、身につける機会はある。書くも目に見える形だが、聞くはリテラスというベネッセがやっている論理言語力検定を受けさせてみたところ、聞く力は全国平均から見るとまずまずよいが、社会で通用するレベルにはちょっと足りていない。3級は取得できるが、2級が高校卒業程度レベルだが、それで見るとちょっと足りない。注意して聞くとか、何が重要なのか理解しながら聞くことを伸ばせばもっと生徒たちの能力が伸びると感じている。そこをテスト的なもので強化しながら、または地域に出ていって異なる立場の方の意見や話を聞くことで、実地の力を身につけていければいい。

良好な人間関係を築くために、相手の気持ちを理解し、共感しながら話を聴く力について、厚生相談課では、人間関係構築の授業を4月に行った。同世代の子たちの話を聴くことも並行しながら、地域との関わりの中、生徒との日常の関わりの中、または部活動で色々な所と交流する中で身につけていく大きな力だと感じているので、そのような形で進めている。

#### ○委員

【意見】今、地球温暖化や海水温の急激な上昇で、地域の水産業の置かれている現状は目まぐるしく変化している状況がある。例えば、毎週、海洋調査をやっているが、今の水温が16度もある。例年だと、10度くらい。春先から水温の高い状況が続いていて、例えばホタテとかイシカゲ貝とか、そういう水産物は高水温に非常に弱い。去年も水温が27度とか28度とかいう状況の中で壊滅的な被害を受けた状況もある。そういう状況を間近に感じられるのは、逆にそういう体験はなかなかできないことなので、水産業の現場の大変さを生身で知る、言い方は悪いが、絶好の機会と思う。積極的に現場の生産者と交流する、情報交換をするといった機会がもっとあったらいい。

#### ○委員

【感想】高校という場所は、それぞれで選んで手を挙げてきたところである。そういった中で、彼らがこの高田高校を選んでくれたというのは、様々なこうした取組に共感をした部分にあると思う。今年度の重点目標の中で、学力の向上を図るといったところは基本としてしっかり取り組んで、子供たちにしっかりと取り込ませる環境を学校だけではなくて私たち保護者もしっかりと守らなければいけないと改めて思った。PTA総会でも保護者の皆さんと共有しながら、子供たちの成長を見守っていきたい。

#### ○委員

【意見】本当に多様な取組をしていて、生徒たちが充実して学んでいると感じた。地元の外国人との触れあいの話があったが、陸前高田の日本語教室に高校生も参加して、いかに多文化になっているかを実感していただきたい。岩手大学にもぜひ来る機会を生徒たちに持ってもらい、大学の学びはどういうものなのかを見る機会も作っていただきたい。

○委員

【意見】授業だけではなくて、本当に様々な活動をしていて、先生方の努力が伝わってくる報告だった。立教大学との関わりは、私が所属しているコミュニティ福祉学部が12年前から高田高校を指定校にしている。12年間で18名の生徒がこちらに進学し、今在籍4名なので、14名が卒業した。その中で、野球部の野球教室、バレーボール部のバレーボール教室を市内で毎年行っており、その中心メンバーが高田高校の出身者ということで、戻ってまた自分がそれに参加できることを楽しみにしている。特にバレーボールは、第1回のバレーボール教室をした時に小学生だった子が高田高校に進んで指定校で入ってきて、今度は子供たちに教える側に回って、去年楽しい時間を持った。今年もまたその子を中心にバレーボール教室を計画しているので、高田の方に伺いたい。そういう細いが長い交流が続いていて、本当に嬉しい。できたら、バレーボール教室も野球教室も、高田高校のすぐ下のキャピタル1000に泊まるので、そういう時間を使ってまた生徒たちと交流できたらと思うし、高田高校を出て大学へ進んで、その大学で何が楽しいか、何が大変かという話を直接生徒に話すような時間ができたらいい。

○委員

【感想】陸前高田で日本語教室をやっている。陸前高田市は、人口の1%が外国人になっていて、これからも増えていくものと考えている。その中で、色々な国籍の方が市内にいて、若い人が外国の方に関わっていく機会はどんどん増えていく。もちろん、学校の中では、英語を学ぶとは思いますが、生活している外国の方に接する時は、相手が困っている時に何が困っているのか日本語できちんと話を聞いてあげる、相手が何に困っているのか、そして何が自分にできるのかを簡単な言葉で伝えることが中学、高校の時からできていれば、社会人になってからチームワーク、組織の一員としてうまく活躍できる人間に育っていく。陸前高田は恵まれた環境なので、中学校、高校が連携して、よりよく育てていって欲しい。

○議長

皆さんから、非常に貴重な意見をいただいた。これをもって、協議を終了する。

## 5 その他

○副校長

第2回の学校運営協議会は、今年度も2月中旬を予定している。近くになったら日程を調整する。委員の任期は、1年となっているが、複数年委員になることを妨げるものではない。翌年の委員について依頼することになるが、転勤や部内移動等により委員を降る場合は、連絡をいただきたい。

本日の旅費は、旅費支給の対象の方の口座に後日振り込まれるので、確認して欲しい。な



お、帰る前に事務長に口座関連の用紙を提出していただきたい。

これをもって岩手県立高田高等学校第1回学校運営協議会を終了する。

## 6 閉会